

国語科 学習の手引き（1年）

【教科のねらい】

- (1) 授業の学習課題に対して、根拠をもとに考えることができる。
- (2) 相手に分かりやすく、自分の考えを説明や発表をすることができる。
- (3) グループワーク等を通して考えの共有を図り、自分の意見や考えを発表することができる。
- (4) 漢字や文法の学習を通して、語句への理解を深めることができる。

【1年間の学習の流れ】

学年	第1学年	
月	○題材名・教材名	単元の到達目標
4	○朝のリレー ○シンシユン ○ダイコンは大きな根？ ○ちよっと立ち止まって	●気持ちが伝わるように、声に出して読む。 ●情景や登場人物の気持ちを想像し、表現を味わう。 ●段落の役割に着目して読む。 ●文章の構成に着目して読む。
5	○漢字の組み立てと部首 ○言葉のまとまりを考えよう ○情報を的確に聞き取る ○漢字に親しもう1・2 ○情報整理のレッスン 比較・分類 ○情報を整理して書こう ※図書室ガイダンス	●漢字の組み立てと基本的な部首について理解する。 ●文法の定義や言葉の単位について理解する。 ●情報を的確に聞き取り、メモを取る。 ●集めた情報を比較したり分類したりして整理する。 ●目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にして書く。
6	○思考のレッスン1 意見と根拠 ○話の構成を工夫しよう ○詩の世界 ○比喩で広がる言葉の世界 ○指示する語句と接続する語句	●意見に説得力をもたせる根拠の在り方や、意見と根拠の結びつきについて理解する。 ●観点を立てて情報を集め、整理する ●詩の言葉を読み味わい、語感をみがく。 ●詩の情景を想像し、表現の効果について考える。 ●比喩について理解し、言葉についての考えを深める。 ●文章全体における各段落の役割をおさえ、文章の内容を正確に捉える。 ●指示する語句・接続する語句の働きを整理し、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることを理解する。
7	○言葉を集めよう ○大人になれなかった弟たちに…… ○星の花が降るころに ○聞き上手になろう	●観点を決めて言葉を集め、言葉の選び方を工夫して紹介文を書くことで語彙を豊かにする。 ●関連する本などを読み、自分の考えを広

	<p>※弁論文指導</p>	<p>げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉える。 ●比喻の表現について理解して、描かれている内容を想像する。 ●場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて、作品を読み深める。 ●きき方の工夫や質問の種類について知り、実際に対話の中で使って練習する。
<p>8 ・ 9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○項目を立てて書こう ○読み手の立場に立つ ○方言と共通語 ○漢字の音訓 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝える事柄・目的・相手に応じた、呪法の整理のしかたを理解する。 ●相手にとって必要な情報が明確に伝わるように、情報を整理してわかりやすく書く。 ●案内文の形式を確かめ、読み手の立場に立って文章を整える。 ●方言と共通語のそれぞれの特徴と役割を理解する。 ●漢字の「音」と「訓」の性質や歴史について理解する。
<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「言葉」を持つ鳥、シジュウカラ ○思考のレッスン2 原因と結果 ○根拠を示して説明しよう ○漢字に親しもう3 ○話題や展開を捉えて話し合おう 	<ul style="list-style-type: none"> ●筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解する。 ●文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。 ●原因と結果のつながりについて理解する。 ●本や資料から文章や図表を引用する。 ●根拠を明確にし、伝えたいことの方が明らかになるように、工夫して書く。 ●意見と根拠を明確にして話し合う。 ●話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめる。
<p>11</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大阿蘇 ○いろは歌 ○蓬萊の玉の枝 ○今に生きる言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ●描かれている情景を思い浮かべたり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら朗読する。 ●古典の作品と自分とのつながりを考える。 ●古文の言葉の響きや、調子に読み慣れる ●仮名遣いに注意して音読し、古典に読み慣れる。 ●登場人物の関係や思いに着目して読む。 ●漢文特有の言い回しに読み慣れる。 ●故事成語について理解し、自分の生活と結びつけて考える。

12	<p>○書写「行書の書き方を学ぼう」</p> <p>○「不便」の価値を見つめ直す</p> <p>○助言を自分の文章に生かそう</p>	<p>●行書の特徴を知り、筆づかいを意識して書く。</p> <p>●必要な情報を取り出し、結び付けて要約する。</p> <p>●筆者の主張を要約し、それに対する自分の考えを持つ。</p> <p>●書評を書き、交流することを通して、自分の考えや読書の幅を広げる。</p> <p>●読み手からの助言を基に、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。</p>
1	<p>○漢字に親しもう4</p> <p>○文法への扉2 言葉の関係を考えよう</p> <p>※書き初め</p>	<p>●文節どうしの関係と文の成文、連文節と文の組み立てについて理解する。</p> <p>●行書の特徴を理解して書写に取り組む。</p>
2	<p>○少年の日の思い出</p> <p>○漢字に親しもう5</p> <p>○単語の性質を見つけよう</p>	<p>●文章の中での語句の意味に注意して読み、語彙を豊かにする。</p> <p>●場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深める。</p> <p>●単語が自立語・付属語に分けられること、品詞や体言・用言について理解する。</p>
3	<p>○随筆二編</p> <p>○構成や描写を工夫して書こう</p> <p>○さまざまな表現技法</p>	<p>●事物や情感を表す語句や表現に着目して読み、語感をみかく。</p> <p>●場面の展開や描写を基に、筆者の考えや思いを捉える。</p> <p>●さまざまな表現技法の特徴と効果を理解し、言葉の幅を広げる。</p>

【評価の観点と方法】

方法 \ 観点	関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	言語技能
授業での観察	○	○	○	○	○
定期考査			○	○	○
提出物	○		○	○	○
単元テスト			○	○	○
各種課題	○	○	○	○	○

【授業を受ける時のポイント】

○授業前の準備

- ・ 授業教材を準備した上で、定時着席をしましょう。
- ・ 教科書の音読や語句の意味調べを行いましょう。
- ・ 教科書に載っている単元の目標を確認しましょう。
- ・ 漢字小テストに向け、繰り返し練習に取り組みましょう。

○授業

- ・ 学習課題やグループワークに積極的な姿勢で取り組み、言葉に対する理解を深めましょう。
- ・ 考えをいろいろな人と共有して、様々な考えに対して理解する気持ちを養いましょう。
- ・ 話を聞いてメモを取る習慣をつけましょう。
- ・ 根拠を示して答えられるようにしましょう。

○復習

- ・ ノートやプリントの整理を通して、授業を振り返りましょう。
- ・ 授業前と授業後での考えの変化や気づきについて、まとめられるようにしましょう。
- ・ 「ワークブック」を活用して、理解を深めましょう。

【使用教材・補助教材】

教科書	中学校国語1(光村図書)
補助教材	よくわかる国語の学習1(明治図書) 最新国語資料集(明治図書)
その他	ノートプリント・ワークシート 国語辞典(必要に応じて)